

■2008年度 本格的な夏がやってきました!!

例年になく長梅雨の影響で、気温の変化が激しい日が続いています。皆さまはお元気にお過ごしでしょうか。さて、いよいよ梅雨明けも間近となり、いよいよ本格的な夏となります。故郷へ、海へ、山へ、全国大会へ、研修へ、皆さまの思いも様々とお察しするところではありますが、是非、暑さに負けず、充実した時間を過ごしたいものです。東京支部も役員が増え、熱気に満ち溢れています。研修等、さらに充実していきますので、ご期待下さい。

■目次

1. 2008年度 日本臨床発達心理士会東京支部報告
2. 2007年度 日本臨床発達心理士会東京支部活動報告
3. 2008年度 日本臨床発達心理士会東京支部活動計画
4. 2007年度 日本臨床発達心理士会東京支部会計報告
5. 2008年度 日本臨床発達心理士会東京支部予算案
6. 東京支部研修報告
7. 東京支部研修会アンケート結果報告
8. 第2回東京支部役員会議事略稿
9. 第2回東京支部資格更新研修会(予定)
10. 事務局だより

■1. 2008年度 日本臨床発達心理士会東京支部総会報告

日時：2008年6月8日(日) 12:30～13:00 場所：筑波大学東京キャンパス G501 教室

概要報告

司会からの開会宣言の後、石堂志津子氏が議長として選出された。また事務局長より定足数の確認が行われ、出席 86 名、委任 53 名の計 139 名にて本総会が成立した旨の報告があった。

【報告事項】

1. 支部長より、2007年度の活動内容が報告された。
2. 支部長より、新役員が紹介された。

【審議事項】

1. 支部長より、資料に基づき 2008年度の活動計画について説明があり、質疑応答の後、承認された。
 2. 会計担当より、資料に基づき 2007年度の会計報告がなされ、また会計監査より監査報告がなされた。質疑応答の後、承認された。
 3. 支部長より、資料に基づき 2008年度予算案について説明があり、質疑応答の後、承認された。
- 議事終了後、議長の解任がなされ閉会となった。

■2. 2007年度 日本臨床発達心理士会東京支部活動報告(2008年度総会にて承認済)**1. 総会の実施：**

規定に基づき、2007年度の総会を2007年6月3日(日)明治学院大学で開催した。

2. 研修会・研究会等の開催：

<表1>の計画に添って、研修会を開催した。

＜表 1＞ 2007 年度研修内容一覧

日程	研修会
2007. 6. 3 (日) 明治学院大学 第 1 回東京支部資格更新 研修会	TEACCH における自閉症支援の実際 講師：黒田美保 (よこはま発達クリニック) 軽度発達障害児の社会的トラブル予防救済のためのネットワークのあり方 講師：堀江まゆみ (白梅学園短期大学)
2007. 12. 2 (日) 筑波大学 (大塚) 第 2 回東 京支部資格更新研修会	基礎研修 1：幼児教育と保育の発達支援 講師：松永あけみ (群馬大学教育学部) 基礎研修 2：学齢期の発達障害 ～アスペルガー症候群を中心に～ 講師：渡辺慶一郎 (東京大学病院「心の発達」診療部) 研 修 3：幼児への発達支援の実践 講師：木原久美子 (帝京大学文学部心理学科) 研 修 4：障害受容と家族支援 講師：玉井邦夫 (山梨大学教育人間科学部障害児教育講座)
2007. 9. 30 (日) 筑波大学 (大塚) 第 1 回東 京都特別支援教育特別研 修	研修 I 「これからの東京都の特別支援教育」 東京都教育庁指導部 太田裕子 研修 II 「巡回相談員等として求められる臨床発達心理士の専門性とは」 三鷹市教育委員会 田中容子
2007. 10. 14 (日) 筑波大学 (大塚) 第 2 回東 京都特別支援教育特別研 修	研修 I 「思春期・青年期の学校不適応行動の理解と支援」 臨床発達心理士会東京支部 竹谷 志保子 他 研修 II 「通常の学級で発達障害のある児童・生徒のための指導上配慮すべき支 援内容」 明治学院大学 佐々木徳子
2008. 1. 6 (日) 筑波大学 (大塚) 第 3 回東 京都特別支援教育特別研 修	研修 I 「SST の基本的な考え方と小・中学校における具体的支援」 東京学芸大学 藤野 博 研修 II 「発達障害のある生徒の就労支援 ～ 職業準備の課題 ～」 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター障害者支援部門 上席研究員 向後 礼子

■ 3. 2008 年度 日本臨床発達心理士会東京支部活動計画(2008 年度総会にて承認済)

1. 総会の実施

規定に基づき、2008 年度の総会を、2008 年 6 月 8 日 (日) 筑波大学 (大塚) で開催し、2008 年度の活動計画、予算を決定する。

2. 研修会・研究会等の開催

＜表 2＞の計画に沿って研修会を開催する。

＜表 2＞

2008 年度研修内容一覧

日程	研修会
2008 年 6 月 8 日 (日)	第 1 回 東京支部資格更新研修会
2008 年 11 月頃	第 2 回 東京支部資格更新研修会
2008 年 5 月 16 日、8～1 月頃	文京区巡回相談研修会
2008 年 8 月～2009 年 1 月頃	特別支援教育ネットワーク研修 (2 回)
2008 年 8 月～2009 年 1 月頃	発達支援ネットワーク研修 (2 回)
2009 年 1 月～2 月頃	5 支部合同研修会

3. 「ニューズレター」の発行、ホームページの運営：

ニューズレターを年 2 回 (予定では 3 回) 発行した。

4. 職域開発と研修：

1) 文京区巡回相談

対象校：小学校 20 校、中学校 11 校 巡回担当者 20 名

特別支援教育コーディネーター連絡会への参加（3回）

巡回相談担当者連絡会 2回

2) 都立永福学園への配置

担当者 3名 配置時間数 200時間 生徒の行動観察と教員への助言、研修、近隣高校への巡回（研修）

3) 都立世田谷泉高等学校への巡回相談

文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」担当者 2名

4) 都立高等学校巡回相談

対象校：5校 巡回担当者名 9名

5) 研修

東京都特別支援教育特別研修の実施<表1>により、特別支援教育対応のできる臨床発達心理士の養成を行った。

5. 役員会の実施

支部活動の企画、運営にあたり、年5回の役員会を実施した。

6. 臨床発達心理士会への協力

2007年度臨床発達心理士会全国大会の準備、及び当日の運営に協力した。

日本臨床発達心理士会幹事会、職能委員会への参加、提案、協力を行った。

3. 「ニューズレター」の発行、ホームページの運営

ニューズレターを年3回発行し、支部の活動報告、研修予定などを伝える。ニューズレターの内容等の情報を日本臨床発達心理士会HPに提供する。

4. 職域開発と研修（特別支援教育）

下記1)～4)については、支部として依頼を受けてスタッフ配置と研修を行う。

1) 文京区巡回相談

対象校：小学校 20校、中学校 11校 巡回担当者 19名 実施予定回数 124回

特別支援教育コーディネーター連絡会への参加（3回予定）

文京区巡回相談研修会（3回予定）

2) 都立永福学園への配置

対象校：1校 担当者 3名 配置時間数 200時間

3) 都立世田谷泉高等学校への巡回相談

文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」 担当者 2名～4名

4) 都立高等学校巡回相談

対象校：5校 巡回担当者名 8名 巡回相談研修会（2回予定）

5. 日本臨床発達心理士会への参加・協力

日本臨床発達心理士会幹事会、職能委員会への出席、提案等を行う。

日本臨床発達心理士会主催国際ワークショップ（8/5～8/7）に協力する。

<新規事業>

1. ネットワークづくり

①特別支援教育ネットワークに向けて、研修会・連絡会を行う。

②発達支援ネットワークに向けて、研修会・連絡会を行う。

2. 他支部との合同研修会

神奈川、茨城、栃木、群馬と合同で研修会を実施します。

* 合同の企画・運営による研修内容の充実 * 他支部との連携、情報交換

■ 4. 2007年度 日本臨床発達心理士会東京支部会計報告(2008年度総会にて承認済)

【収入の部】

会費（2007年度分 395名）	790,000円
支部研修会参加費（2007年度は徴収せず）	0円
東京都特別支援教育研修会参加費	107,000円
郵便貯金利子	856円
前年度繰越金	1,116,979円
計	2,014,835円

【支出の部】

ニューズレター発送費 (2回発行 印刷代・紙代・郵便代)	183,722 円
支部研修会運営費 (講師謝礼・講師交通費・会場費・諸経費)	187,289 円
印刷代 (総会資料・研修会資料・役員会資料)	59,590 円
通信費	45,608 円
消耗品費(事務用品)	9,060 円
東京都特別支援教育研修会 (講師謝礼・講師交通費・会場費・資料印刷・諸経費)	219,007 円
計	752,726 円

【残高の部】収入 2,014,835 円 - 支出 752,276 円 = 残高 1,262,559 円

※残高 1,262,559 円は、2008 年度東京支部への繰越金といたします。

■ 5. 2008 年度 日本臨床発達心理士会東京支部予算案(2008 年度総会にて承認済)

【収入の部】

摘要		備考・内訳
・支部会費	904,000 円	2,000 円×452 名(6/1 時点)
・前年度繰越金	1,262,559 円	
計	2,166,559 円	

【支出の部】

摘要		備考・内訳
・ニューズレター発行費 (3回)	320,000 円	@印刷・郵送単価 233 円×452 名×3 回
・通信費	120,000 円	会員への研修案内、事務書類発送等
・研修会運営費	730,800 円	支部研修会 (2回) 会場費 60,000 円 講師謝礼 128,000 円 運営費 10,000 円 文京区巡回相談研修会 (3回) 会場費 4,800 円 特別支援教育NW研修会 (2回) 会場費 40,000 円 講師謝礼 64,000 円 運営費 10,000 円 発達支援NW研修会 (2回) 会場費 40,000 円 講師謝礼 64,000 円 運営費 10,000 円 5支部合同研修会 会場費等 300,000 円
・印刷代	100,000 円	総会資料、役員会資料、研修会資料等
・会議費	100,000 円	役員交通費 (2000×延べ 50 人)
・事務用品/備品	50,000 円	会計印、記録保存・整理用 USB、ファイル等
・国際ワークショップ協力金	200,000 円	全国士会主催 8/5~7(日本女子大) 支部会員参加費減額
・支出合計	1,620,800 円	
・予備費	545,759 円	
計	2,166,559 円	

(文責 澤 隆史)

■ 6. 研修報告

①「ディスレクシアのアセスメントと指導について」(研修会 1)

平成 20 年 6 月 8 日 (日) 午後 9 時 30 分から午後 0 時 30 分 筑波大学東京キャンパス

講師 明治学院大学 大石敬子氏

参加者 72 名

6 月 8 日、「ディスレクシアのアセスメントと指導について」と題し、大石敬子先生からご講義を頂いた。読み書きの発達は、

「文字の読み書きを覚える段階」と「読解・作文の段階」の二つの段階があり、いずれも「話し言葉」の成熟が必要である。子ども達は、話の流れを話せる4歳頃、音韻に気づくが、ディスレクシアを持つ子どもは、この“気づき”が遅れ、「文字の読み書きを覚える段階」でつまづきやすい。また、読解とは、文章が表す「あるまとまった意味を理解すること」であり、作文とは、文章によって「あるまとまった意味を表現すること」であるが、「読解・作文の段階」でつまづきやすい児童は、学童期に読書を通して発達する「抽象的な意味を持つ語彙の増加」、「複雑な構文（文法規則）の獲得」、「推論という認知機能の発達」を得にくい。このような困難を示す児童への文字の指導、読みの指導、読解・作文の指導を具体的な事例をあげてお話し頂いた。

(文責 菊地真由美)

②「発達障害への薬物療法」(研修会 2)

平成20年6月8日(日) 午後2時30分から午後4時30分 筑波大学東京キャンパス

講師 横浜市東部地域療育センター所長 日原 信彦氏

参加者 105名

講師より、第1部「向精神薬の基本」、第2部「発達障害と併存症への薬物療法」に分けて、発達障害への薬物療法について、特に、リタリンにかかわって適用されるようになった中枢刺激薬・コンサータ等、最新の情報を踏まえて、講演いただいた。

第1部では、向精神薬を抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬、中枢刺激薬、抗パーキンソン薬・抗コリン薬等に分け、効果・副作用・使用上の注意について概説いただいた。

第2部では、ADHD、自閉症、不安障害・気分障害に対する薬物療法の実際について説明いただいた。

講演中、講師が何度も強調されたが、我々は、発達障害へのプロパーとして、発達障害への薬物療法は、あくまでも、顕在化している情動の問題への対症療法であることをよく自覚するとともに、薬物療法は、混乱の状況にある、子どもの気持ちを支え、家族の戸惑いや困惑を緩和させるための側面支援であり、その間に併行して、他の治療的な関わりや支援を行うことを忘れてはならないことを改めて痛感した。(文責 大蔵 滋)

■7. 東京支部研修会アンケート結果報告 平成20年6月8日(日)

1. 参加者の所属支部

東京支部 73名 その他 4名

2. 資格取得年度

02年度 6名 03年度 8名 04年度 9名 05年度 9名 06年度 17名 07年度 10名 08年度 18名

3. 参加した会

研修会1 午前：ディスレクシアのアセスメントと指導 72名

研修会2 午後：発達障害への薬物療法 64名

4. 内容について

非常に満足 44名 おおむね満足 30名 やや不満 1名 大いに不満 0名 無記名 2名

5. ご意見

「大変充実した内容でした。独学ではなかなか学べない内容なので助かります。」

「薬について具体的に知ることができよかったです。」「事例レベルでお話いただいたのがよかったです。」など大変好評でした。

6. 今後の研究会についての希望

発達検査の読み取りなど (DN-CAS など)

虐待について

発達障害の二次障害について (非行、犯罪、引きこもり、不登校、ニートなど)

発達障害の思春期の問題

特別支援学校の中でのアセスメントと個別課題について

コミュニケーションの発達

保育園の中でのリスクマネジメント、保護者への対応

巡回の現状、コーディネーターの役割

保育者研修の心得など

(文責 東 淳子)

■ 8. 役員会議事略録

日時：2008年6月8日(日) 17時～19時

場所：筑波大学(大塚)

出席者：竹谷 須田 川間 澤 田坂 菊地 宇賀神 黒田 正田 仲村 松村 東 大倉

審議事項

1. 平成20年度第2回資格更新研修会について

日時：12月7日(日)あるいは11月9日(日)

場所：筑波大学(大塚)もしくは学芸大学

内容：午前は新版K式について

午後は行動問題のアセスメントについて

2. 他支部との合同研修会について

各支部が集まって案を出し合い決めることとする。

3. 研修会及びネットワーキングについて

1) 特別支援教育ネットワーク

教員で臨床発達心理士資格を持つコーディネーターを中心に、研修会案をだしてもらい、東京支部とともに開催

2) 発達支援ネットワーク

、乳幼児の発達支援関係者の方を中心に、情報交換会を行う予定。

4. NLについて

年3回発行。2号は7月～8月に発行。内容は総会報告、研修会アンケート結果など。

5. 今後の事務局体制に向けて

■現在の情報管理

(1) 会員情報管理：新たに更新があり、事務が複雑になっている(更新しない人を保留リストにするなど)

(3) 総会の準備とNL作成に関する連絡調整および印刷・発送の発注と、研修会運営の調整が事務局に集中しているので仕事を分担することに関し検討がなされた。

報告事項

1. 文京区巡回相談の状況について

31校に19名を配置。第1回研修会は12名参加。今年度より研修会としてポイント対象とした。

2. 都立世田谷泉高校の状況について

今年度より予算が増え、増員を図るがスタッフが充足していない(現在2名担当。2～4名を検討)。5月22日に第1回目の巡回相談(生徒面接と先生へのコンサルテーション)を実施。1回8時間を依頼し、今後は先生自身への研修会等も行う予定。

3. 都立永福学園実施状況について

3名で巡回相談をしている。昨年度200時間から今年度は280時間と時間数が増えた。研修会は既に4回実施。授業観察と先生とのコンサルテーションが中心。

4. 都立高等学校巡回相談の状況について

大江戸高校は既に巡回相談を始めている。他校も始まりそうであるが、内容は前年度同様となる見通し。

5. 国際WSの状況について

東京支部も協力することになった。東京支部会員については参加割引があるが、全額納入してしまった場合のキャッシュバックについて確認すること。

(文責 仲村照子)

■ 9. 第2回東京支部資格更新研修会(予定)

第2回の東京支部主催資格更新研修会は、下記の日時・場所を予定しております。

日時：平成20年12月7日(日)

場所：東京学芸大学講義棟

内容：・K式発達検査の実施と応用

・行動問題のアセスメントについて

ご予約を空けて、ふるってご参加下さい。なお内容等の詳細につきましては、10月頃にご案内致します。

■10. 事務局だより

以下の会員の方々への郵送物が返却されてきます。ご存じの方は、その方に「住所変更届を出した方がよいですよ。」と一言お声かけ下さい。また近隣に会員の方がいる場合は、お互いに郵送物に関する情報交換（「私のところには届いているけど、あなたのところはどう？など・・・」）をしていただくとありがたいです。事務局から皆様への発信は、基本的に郵送のみです。住所変更された方（他支部へ異動された方、他支部から異動してきた方を含む）は出来るだけ速やかに、変更届をご提出下さいますようお願い申し上げます。

亀田佐和子 坂口博美 朝倉知香 岩坪逸子 吉野加容子 浅井義邦 上村佳世子 高橋 睦 飯島真理子
（順不同、敬称略）

★新規役員 田中雅子(高島特別支援学校)

以上

東京支部ニューズレター2008年度第2号(通巻6号) 2008.7 発行
編集:田島洋介(NL担当)

